

芹川^{せりかはのさと}里^{よと}は淀の東北半里にあり。いにしへは天子遊獵の地にして行幸たえずありしなり。〔むかしは此里に川ありて三尺の根芹生ず、故に名とす。今は民村となりて人家多し〕

仁和御門嵯峨^{さが}の御時の例にて、芹川に行幸し給ひけるとときよめる

後 撰 さがの山みゆき絶にし芹川^{せりかは}の千代^{ちよ}の古道跡^{ふるみち}はありけり 行 平

新続古 春くれば千代の古道ふみ分て誰芹河に若菜摘らん 家 隆

続 古 けさだにもよをこめてとれ芹川や竹田^{たけだ}のさなへふし立にけり 読 人 し ら ず